

う場で「人間が大切なこと」についていろいろ話をする課程で、総合学習で学んだ、人間の歴史・ロボットやサルとの違い・心の問題等、共に話し合うと彼らは実によくわかり、いっしょのホームルームで習ったことなので、実に説得力があった。実際、その時の反省文に、「総合学習の授業で、人間の大切さがよくわかったのに、実際の場でそれがわからなかった自分が恥ずかしい」と書いた生徒もいた。生徒指導に与っては教科指導と違い、専門分野を教えるのではなく、人間対人間という関係で、いろいろ問題点を指導していかねばならない。中々我々の言うことを心の中にまでしっかり受けとめてくれるケースは少ない。が、今回の事件にあたっては、総合学習で数回、いっしょに人間について考えてきた生徒であったため、まだ未熟な担任の言葉を心の中まで受け入れてくれたようだ。本校の村上校長も、人間を大切にすることをモットーにしていて、この事件を遺憾に思い、中3の生徒全員に対して特別に訓話をしたが、その言葉は、いくつかの面

で、偶然だが、総合学習授業のねらいの部分と重なり生徒の心に大いに突き刺さり、大勢の生徒が涙を流して聞き入った。

どの生徒も、その時、心の底から反省し、人間尊重を心に焼きつけた。私は、未熟な私の説教を、真剣に受けとめ、校長先生の話に大勢が涙まで流した背景には、総合学習で「人間について考え」てきた一成果があると評価したい。総合学習における授業は、教科の枠をとった教科指導ではあったと思うが、生徒指導という教科外指導に、担任として大いに役立てることができたのである。

我々の総合学習授業は、一つの試みにすぎないが、教科の枠を取り払うにとどまらず、そういった教科外の事項へ寄与していくという点で、一成果を果たせたことを担任として感謝し、かつ総合学習の一つの姿として、教科外活動・教科外指導への貢献という面を、実感したことを報告したい。

4. 総合学習「人間について考える」をどう評価すべきか

田 中 裕 巳

(1) はじめに

1981年初春から開始した総合学習「人間について考える」の授業は、試行錯誤をつみ重ねながら、1983年3月の川田の授業(今報告2の(5))をもって、いちおうのゴールにたどりついた。「ゆとり」の時間を利用してと言いつつ、実際には、ほとんどが学級活動の時間を割いてもらうことによって成立し、あるいは教科の時間にも食い込んだりして、ようやくまがりなりにも用意された10の授業案がすべて実践された。1981年度および1982年度の中3の担任の協力なしには本グループの研究も成り立たなかった。御協力を深く感謝したい。

1982年の10月29日に本校の中等教育研究協議会があり、当日の公開授業も含めて、中間報告に対しての批判の場を設けた。公開授業は、昨年度本紀要において授業案の骨子を発表しておいた安藤富美子の「人間における性の役割」であり、事前の生徒たちへのアンケート結果を利用したり、グループの他の教師たちの発言も求める意欲的なものであった。当日の他の発表もあわせて次項でとりあげるが、「総合学習」の分科会は、名古屋近辺の学校を含めて総合学習の経験交流を行うことが出来て有意義であった。

中等教育研究協議会後は、残り4つの授業(高橋祐・三橋・白井・川田)が行われ、1982年度の試みは一応終了した。グループのメンバーのうち、4月1日で鈴木が定年退官、高須・増田が転出し、安藤の育児休暇中の代用教官として岡本が加わり、松井・川田が他グループに移籍し、1983年度からの新しいグループは、岡本(安藤)・白井・高橋祐・田中・徳井・三橋・山田・久保の実質8名となった。本論文ではグループのメンバーは、1982年度の研究に関わった者すべてを表記しておいたが、総合学習の研究グループは新メンバーのもとで新しい構想による研究(後述)に着手している。

(2) 中等教育研究協議会で問題になったこと

10月29日の中等教育研究協議会C分科会「総合学習」には、30数名の参加者があった。三重県立飯野高校(定時制)で既に総合学習を試みられる富山先生を始め、中・高にまたがる先生方が、私たちの試みの中にある問題点を指摘する一方、御自身の実践を紹介してくれた。分科会の2つの発表①「総合学習を求めて」(徳井輝雄)、②「授業についての反省と問題点」(安藤富美子・田中裕巳)を簡単に紹介し、そこでの問題点を整理しておきたい。

①「総合学習を求めて」(徳井輝雄)では、徳井が

“ゆとり”の時間を利用した総合学習の展開

本稿1 “総合学習研究四年の歩みから”にレポートしているように、研究グループの歩みを簡単にまとめてから、「人間について考える」というテーマ設定のいきさつ、総合学習に認めた意義を述べた（徳井論文参照）。

この発表に対しての質疑は次のように行われた。

- 「授業に対しての生徒の反応はどうだったか？」——「それぞれ授業後に感想文をかかせて反応をみたが、反応はまあまあ、あったようだ。午後の発表でくわしくふれたい。」
- 「“ゆとり”の時間の使い方について、中1・中2はどうなっているのか？」——「月曜の第1限は生徒会活動、第4限は校内美化（清掃）、ゆっくりとした昼食、木曜第5・6限が学級会活動、土曜の第4限がカットとなっている。」
- 「高校において総合学習を実践して行く展望はどうか？」——「高3で選択制のカリキュラムを組んでいる。その中に総合学習を組み込むこと位しか今のところは考えられない。」
- 「中3の選択教科についてはどうしているのか？総合学習について実際に取り組んでいるが、学校の規模がちがいで、総合学習への取り組む形態も違う。私の所では、小グループを編成し、個々人が興味を持ち、グループで話し合ったテーマを授業内に持ち込んで行っている。自分が興味をもって行くことが、自分の陶冶のためにも得るもの大きいと考える。生涯教育の立場をもう少し教えてもらいたい。」——「中3の選択教科は芸術にあてている。本校の総合学習の形態は、テーマを教師サイドが選んでいるが、本来は、自分でテーマを選んでやって行けるようになることが、生涯教育の指針ともなっていくのではないだろうか。今後の課題として考えている。」

午後の② “授業についての反省と問題点”では、まず「人間について考える」の授業を第1回の松井から第5回の高須の分までVTR（約20分）で紹介（田中・松井にて編集）。その後、分科会の前に行われた公開授業 “人間における性の役割”について授業者（安藤富美子）からの反省として、「生徒にどのように考えさせて行けば良いのかという点に苦心した。生徒に発言させる機会をうまくとらえられなかった。」という感想が出された。参加者からは、「今までの授業とのつながり、本時の位置の必然性などが分かりにくい。系統性がなくてもいいのか？」という本質的な質問が出されたが、このことは、今回の総合学習の試み全体の評価にもかかわることで大事なことではあるが、私たちとしては、今のところ「人間について考える」指導案を様々な側面から試作している段階であり、あまり系統性がないという批判は甘んじて受けるほかある

まい。

発表は最後に私が、「総合学習——その成果と問題点——アンケート資料に基づいて」というテーマで、本グループの試みについての中間的総括を試みた。以下は発表の骨子である。

「学級活動の時間に総合学習を行っていることについて、生徒達の反応はあまり芳しくなかった。教科の枠にとらわれない、ゆとりのある思考をという教師側の願望があまり伝わっていないようだ。

総合学習に興味を持つ者ももちろんいるが、興味を持つテーマに性差がみられる。全体的にみて“ゆとり”の時間の中に、総合学習が入ることについては、生徒たちにとっても、担任や教師にとっても負担が大きくなっているように思う。

“人間について考える”というテーマについては、当初の“生物的存在としての人間”というもう少し限定されたテーマが、“人間とは何か”という教養講座のテーマのようになってしまった。テーマの限定の仕方について、討論が決定的に不足していたためだろう。

授業形態の面では、VTRなどを利用しながらも講義が中心となってしまう、増田の“食物の歴史”以外は生徒の自主的な活動場面が少なかった。授業のプロデューサーとしての各担当者が、結局は、授業者になってしまった訳だが、見学や外部講師による話などかあっても良かった。また、一つのテーマをめぐる教師のパネル・ディスカッションを組み込むということも有効であったのではないか。

各授業の配置は、ある程度、系統性を考えているが、2学級の実施の順番とか、それぞれの授業の十分な位置づけという点で、系統性に欠けていることは事実だ。10の授業が全部終了したところで、最後に全体の関連を考えさせる時間を持たら良いと考えている。

私たちの総合学習についての基本的な考え方は、(1)科学における総合性……個別科学の認識から生き方にまでかかわる認識を、(2)教育における総合性……各教科と生徒の自主活動・行事・学級指導等をどう総合化するか、(3)認識方法としての総合性……文字・映像・マンガ・音なども認識の方法としてとり込む、体全体での認識、の3つの側面を今日の教育に欠けるものとしてとらえ、この3つの側面を“総合学習”として重視し実践して行こうという点にある。今回の試みはそのスタートラインに過ぎない。今後様々な実践を試みて行きたい。」

以上の発表について次のような質疑応答があった。

- 「総合学習というのは何が総合なのか分かりにくい。ここで行われているのは、教材的な総合にしかすぎ

ないのではないだろうか?」——「私たちとしては、先の3つの側面を念頭において試みているつもりだが、今回の試みは、いまだ(1)の科学における総合性という範囲の中だけでウロウロしているという段階のようだ。」

・「現場にもどれば、総合学習の実現を困難にする体制がある。「ゆとり」の時間は授業の補習、文化系の衰退、読書人口の減少等、総合学習をチームティーチングさえできない状況であり、教師の発想の転換がなければ実現は不可能である。このような状況を打開するためにはどうしたらいいだろうか?」——「教師が自分の担当教科の授業にのみ閉じてもっている状況を打破する必要がある、まさに「教師の発想の転換」が必要だと思う。生徒たち一人一人の「生き方にかかわる認識」に教師一人一人がどうかかわって行くのか、授業でも学級指導でもそこを原点に意識している必要があると思う。そういう

「教師の発想の転換」の上に立って、学校全体がカリキュラムの中に総合学習を取り入れ、全体で取り組むことが出来るようになれば良いと思う。」

当日の参加者の質問や意見から感じたことは、中学・高校において、総合学習を試みることの困難さということである。教師個人が自分の担当教科やHRにおいて総合学習を試みることは比較的容易だろうが、総合学習を教科の枠を越えた教師集団によって試みることは様々な困難をともなう。その意味で、まがりなりにも10名以上の教師たちが、総合学習についての理論的な学習から取り組み、全員で一つのテーマのもとに討議を重ねながら指導案を作成し、実践に取り組めたことは、大きな成果と言えるかも知れない。しかし、それが教師サイドの自己満足に終わってはいけな。今回の総合学習を体験した生徒達にとって総合学習はどういう意味を持っていたのか。そういう視点からの反省を次に試みてみよう。

(3) 2回のアンケートから

【A】研究協議会で「総合学習についてのアンケート結果」を田中が発表した。このアンケートを実施したのは10月26日であり、総合学習は第5回「人類の繁栄と食糧問題」までが終了しているという時点であった。解答者数は中3A 43名(男22名,女21名),中3B 44名(男22名,女22名),合計87名である。必要な部分に限って結果を再録してみたい。

I 「ゆとり」の時間(学級活動の時間)に総合学習が行われることについてどう思いますか。あなたの考えと同じものに○をつけなさい。
(いくつでもよい)

	男子	女子	計
イ うっとうしく思うことがある	15	6	21 (24.1%)
ロ クラスのことにもっと使いたい	19	22	41 (47.1%)
ハ たまには総合学習もよい	13	18	31 (35.6%)
ニ 総合学習の時間をもっとあるとよい	0	1	1 (1.1%)
ホ その他	5	3	8 (9.2%)
〔その他の記入例〕			
・今まで通りでよい	2		
・やりたくない	2		
・HRの時間でやる	1		
・内容次第	1		
・なくして早く帰る	1		
・不明	1		

「うっとうしく思うことがある」が4分の1近く、「クラスのことにもっと使いたい」が半分近く。当研究グループにとっては頭の痛い結果であるが、「たまには総合学習もよい」という消極的支持が31名いることに救いを見出したら良いのだろうか? 「ゆとり」の時間を使った、と銘打ちながら、既に述べたように生徒たちにとって「ゆとり」として意識されているのは月曜日第4限の、掃除と早めの弁当の時間であり、総合学習が実際に多く実施された木曜日第5限は、第6限と連続して学級活動に使われる週の方が多く、そこに時々割り込んでくる「総合学習」とは生徒たちにとって、「うっとうしく思うことがある」「クラスのことにもっと使いたい」と感じさせる以外のあり様はなかったのかも知れない。「総合学習」の時間をどのようにカリキュラムの中に位置づけて行けばよいのか、我々に重要な問題を残している。

II 総合学習「人間について考える」テーマとして、次の1~12のテーマについて、特に興味のあるもの(◎), 興味のあるもの(○), あまり興味のないもの(×)を記入しなさい。

	男子			無記入	女子			無記入
	◎	○	×	入	◎	○	×	入
(1)宇宙の成立から								
人類の誕生まで	10	17	16	1	7	8	18	
(2)サルからヒトへ	1	19	23	1	4	19	20	
(3)ロボットと人間	10	21	12	1	2	22	19	
(4)食物の歴史	2	15	26	1	1	20	22	
(5)人類の繁栄と食糧問題	2	16	25	1	6	14	23	

“ゆとり”の時間を利用した総合学習の展開

(6)人間にとって性とは	5	18	19	2	4	29	10
(7)生物の性の役割	4	16	22	2	4	21	18
(8)病気と健康	4	17	21	2	9	21	13
(9)遺伝子工学と人間	4	17	22	1	4	15	24
(10)ことばについて	4	15	22	3	7	26	10
(11)愛とは何か	6	17	19	2	5	28	10
(12)“生きている”とは何か	7	19	16	2	14	24	5

この結果を◎2点, ○1点, ×-1点として点数化してみると次のようになる。

	男子	女子	合計
(1)宇宙の成立から人類の誕生まで	21	4	25
(2)サルからヒトへ	-2	7	5
(3)ロボットと人間	29	7	36
(4)食物の歴史	-7	0	-7
(5)人類の繁栄と食糧問題	-5	3	-2
(6)人間にとって性とは	9	27	36
(7)生物の性の役割	2	11	13
(8)病気と健康	4	26	30
(9)遺伝子工学と人間	3	-1	2
(10)ことばについて	1	30	31
(11)愛とは何か	10	28	38
(12)“生きている”とは何か	17	47	64

男子は“ロボットと人間”、“宇宙の成立から人類の誕生まで”という技術, 自然科学的なテーマに興味があり, 女子は“生きているとは何か”、“ことばについて”などの人文科学的なものに興味に向いているという, 一応の傾向がみられた。全体としては, “生きているとは何か”、“愛とは何か”などという, ①生徒たちの青年前期的な発達段階から言っても関心を持つことが当然であり, しかも②総合学習のテーマとしてふさわしく, ③まさに教科教育の中ではまともにとりあげられない, テーマへの関心度が高かったということが注目される。

Ⅲ 総合学習の良い点と悪い点について, あなたの考えと同じものに○をつけなさい。
(いくつでもよい)

〔良い点〕

イ 試験や評価がない	38名 (43.7%)
ロ 教科では余りふれられないことをじっくり考えることができる	30名 (34.5%)
ハ ノンビリしてられる	32名 (36.8%)
ニ ビデオなどがみられる	32名 (36.8%)

ホ 色々な先生の話が聞ける	28名 (32.2%)
ヘ “人間とは何か”を考えるとヒントが得られる	8名 (9.2%)
ト ためになる	18名 (20.1%)
チ その他	2名 (2.3%)
〔悪い点〕	
イ 試験や評価がない	1名 (1.1%)
ロ あまり教科の授業と変わりはえがしない	14名 (16.1%)
ハ たいくつだ	47名 (54.0%)
ニ 話が多くてつまらない	30名 (34.5%)
ホ 時間が短かすぎる	10名 (11.5%)
ヘ あまり得るところがない	11名 (12.6%)
ト つながりがよく分らない	27名 (31.0%)
チ みんながうるさすぎる	13名 (14.9%)
リ その他	1名 (1.1%)

良い点・悪い点の両方を合わせて多い方から順に5つをあげると, 「たいくつだ」(47名), 「試験や評価がない(のが良い)」(38名), 「ノンビリしてられる」(32名), 「ビデオなどがみられる」(32名), 「話が多くてつまらない」(30名)となり, 同数で「教科では余りふれられないことをじっくり考えることができる」(30名)が入ってくるという程度で, 所詮“ゆとり”の時間は, “息ぬき”の“ゆとり”でしかないというのが生徒たちの実態であると言い切ってしまうのだろうか。「ノンビリしてられる」も確かに多いのだが, 「たいくつだ」という過半数を越えた声の中には, 我々の授業が生徒たちの要求に充分答えていないこと, 内容次第では, 生徒たちももっと積極性をしめす可能性があることを物語っていないだろうか。

Ⅳ 総合学習の授業の方法について, あなたの考えと同じものに○をつけなさい。
(いくつでもよい)

イ A・B合同の方が良い	27名 (31.0%)
ロ A・B別々の方が良い	40名 (46.0%)
ハ 先生の話中心が良い	12名 (13.8%)
ニ ビデオを見せてもらものが良い	41名 (47.1%)
ホ もっと生徒みんなの意見を発表させて欲しい	8名 (9.2%)
ヘ 一つのテーマについて複数の先生の意見を聞きたい	18名 (20.1%)
ト グループに分かれての話し合いをしたい	11名 (12.6%)
チ 見学や実習を多くして欲しい	34名 (39.1%)

- リ 付属の先生ばかりでなく名
大の先生などの話も聞きたい 18名(20.1%)
- ヌ もっと時間を長くしてじっ
くり考える 3名(3.4%)
- ル その他 1名(1.1%)
- 無記入 3名(3.4%)

総合学習の授業の第1年度(1981年度)は、A・B
2クラス合同の形態で実施した。授業者が同じ授業を
2回繰り返し返さずにすむし、系統性がたもてるからだ。
1982年度は昨年度紀要において既にふれたように(P
55参照)、第1回「宇宙の成立から人類の誕生まで」
以後は、クラス別に切りかえた。授業中の生徒側のザ
ワツキが目立ったからだが、生徒たちの感想としても
A・B合同よりも別々の方が若千多く支持されている。
しかしながら「つながりがよく分らない」31.0%に示
めされるように、2つの授業をセットにしてAとBで
入れかえる方法では、系統性・順次性という大事なも
のが失なわれたようだ。最初から1週ずつずらしてク
ラス別に実施するか、A B合同であくまでも実施する
かどちらかを選ぶべきだろう。

その他の授業方法についての生徒たちの感想として
は、「ビデオを見せてもらうのが良い」(41名)とい
う受動的姿勢が目立つ反面、「見学や実習を多くして
欲しい」(34名)、「話し合いをしたい」(11名)な
どの積極的な姿勢も多いのは、我々の今回の試みが概
して、一方的な講義調に流れていたことの反省材料と
すべきだろう。

[B] 前回と同様のアンケートを最終回の全授業終了後に
実施する予定であったが、機を逸してしまい、新年度
(1983年度)早々に別の観点から実施することとした。

「総合学習」の授業を受けた87名の生徒たちのうち、
附属高校に進学した者70名、外部中学から進学してき
た者65名、合計135名を対象として5月7日に実施し
たアンケートの結果を、次に紹介したい。

当日欠席の者、アンケートを提出しなかった者を除
いて130名が解答者である。内訳は附属中学出身者68
名(男子36名、女子32名)、外部中学出身者62名(男
子28名、女子34名)である。

I 次のようなテーマで講演会があるとします。
各質問に答えなさい。

- イ 宇宙の成立から人類の誕生まで……宇宙カレ
ンダーと生命
- ロ サルとヒト……進化とは何か
- ハ サルの社会とヒトの社会……家族を中心とし
て
- ニ 人間のからだ……精神と身体
- ホ 生物における性の役割……性の進化論

- ヘ 人間における性の位置……愛と性
- ト 信号と言語……人間における言語の役割
- チ 食べもの……文化としての食べもの
- リ 人類の繁栄と食糧危機……「飢え」の時代
- ヌ ロボットと人間……人間における労働の役割
- ル 遺伝子工学と人間……人間の尊厳とは
- ヲ 病気と健康……「病む」とは何か
- ワ 「生きている」とは何か……生きる意味を考
える生物=人間

①あなたが興味をもつテーマを3つ記号で答えな
さい。

	内部 男子	内部 女子	内部計	外部 男子	外部 女子	外部計
イ	13	7	(20)	19	12	(31)
ロ	6	4	(10)	4	2	(6)
ハ	4	1	(5)	3	8	(11)
ニ	7	11	(18)	3	1	(4)
ホ	0	0	(0)	0	0	(0)
ヘ	5	12	(17)	8	3	(11)
ト	9	6	(15)	4	8	(12)
チ	9	9	(18)	2	10	(12)
リ	4	6	(10)	13	12	(25)
ヌ	12	5	(17)	6	5	(11)
ル	13	7	(20)	11	12	(23)
ヲ	6	11	(17)	1	8	(9)
ワ	11	16	(27)	10	13	(23)

内部(附属中学出身者)の場合、「講演会」と言っ
ても、ニとヲ以外は昨年度の「総合学習」のイメージ
があるわけで、外部中学出身者との何らかの有意差が
出るかと予想されたが、特に顕著な差は見られない。
アンケートAの場合のテーマと全く同一のテーマでは
ないので単純な比較はできないが、内部の場合、Aの
アンケートと同様に、もっとも興味を持たれたテーマ
はワの「生きているとは何か」であり、イの「宇宙の
成立から……」とルの「遺伝子工学と人間」が続いて
いる。外部は、内部に比較してリの「人類の繁栄と食
糧危機」が2位になっているのが目立つ程度である。

だが内部に限って、前回Aのアンケートと比較して
みると、興味度を点数化した場合、かなりポイントの
低かったル「遺伝子工学と人間」とチ「食物の歴史」
の2つのテーマが上位になっていることに注目する必
要がある。総合学習の授業の効果が反映していること
は確かだろう。特に「遺伝子工学と人間」の方は女子
の、「食物の歴史」の方は男子の興味・関心が高まって
いるのが特徴である。

“ゆとり”の時間を利用した総合学習の展開

②あなたの関心が比較的低いテーマを3つ記号で答えなさい。

	内部 男子	内部 女子	内部計	外部 男子	外部 女子	外部計
イ	5	12	(17)	5	10	(15)
ロ	10	12	(22)	8	18	(26)
ハ	13	12	(25)	9	9	(18)
ニ	6	2	(8)	5	7	(12)
ホ	10	1	(11)	3	4	(7)
ヘ	8	1	(9)	1	2	(3)
ト	9	12	(21)	5	8	(13)
チ	10	5	(15)	14	7	(21)
リ	3	5	(8)	2	1	(3)
ヌ	6	19	(25)	5	11	(16)
ル	8	9	(17)	6	8	(14)
ヲ	6	3	(9)	11	3	(14)
ワ	4	3	(7)	7	1	(8)

“関心の低いもの”として、2つのサルとヒトとの比較(ロとハ)は内部・外部共通に上位をしめているが、その他、内部ではヌの“ロボットと人間”、トの“信号と言語”、外部ではチの“食べもの”が上位にあるのが目立つ。“ロボットと人間”の場合、Aのアンケートでは、男子ではトップ、全体でも3位の興味度をしめしていたのに、今回のアンケートでは“関心の低いもの”のトップにハとともに並んでしまったのは何故だろうか。前に述べたように、今回のアンケートではテーマの内容が外部中学出身の生徒にも分かりやすいように副題をつけた訳だが、「人間における労働の役割」という副題が少し固すぎたのかも知れない。

Ⅱ 高3の選択教科の一つに、“生徒の自主的な研究を中心とした総合学習の時間”を設けることを計画しています。これについて各質問に答えなさい。

①総合学習の時間(選択)はどのような形態がよいと思うか。よいと思うものに○をつけなさい。いくつでもよい。

- イ できるだけ少数数で
- ロ 理系も選択できる
- ハ 定期テストはやらない
- ニ 先生は複数で
- ホ 生徒の研究・発表を中心とする
- ヘ 卒業研究の意味を持たせ、生徒の論文集を出す
- ト 先生の講義を中心としながら、課題をひんばんに出す

- チ 見学などを時々やる
- リ テーマは生徒各自の自由とする
- ヌ 統一的なテーマはいちおう設ける

	内部 男子	内部 女子	内部計	外部 男子	外部 女子	外部計
イ	10	8	(18)	16	12	(28)
ロ	9	4	(13)	7	3	(10)
ハ	26	30	(56)	15	23	(38)
ニ	7	8	(15)	4	3	(7)
ホ	3	3	(6)	6	5	(11)
ヘ	6	2	(8)	5	1	(6)
ト	4	1	(5)	3	1	(4)
チ	20	25	(45)	17	15	(32)
リ	8	10	(18)	13	12	(25)
ヌ	11	14	(25)	6	13	(19)

前回Aのアンケートでも“試験や評価がない”というのが総合学習の良い点のトップ(48.7%)であったが、同様の姿勢は、今回のハ“定期テストはやらない”に対する内部の78%もの高い支持となっている。外部中学出身もトップはハの61%であるから、同じ様な傾向とは言えるが、“試験や評価”をせざるを得ない教科の授業になって欲しくない、あるいは、試験や評価のない授業があっても良いのではないか、という“総合学習”への期待と受けとめたい。この点、“ゆとり”を使った総合学習から、カリキュラムの中に位置づけられた総合学習へと飛躍する場合、一つの大きな問題点となる。その他、チ“見学などを時々やる”77名(59%)、がかなり高い数値をしめしていることは、総合学習の望ましいあり方をしめしていると言えよう。

②総合学習の時間が設けられたら、あなたはどうか。一つに○をつけなさい。

- イ 積極的に参加したい
- ロ 卒業単位に必要な履修する
- ハ 大学入試には役立ちそうもないから、入試に直結する科目を履修する
- ニ わからない

	内部 男子	内部 女子	内部計	外部 男子	外部 女子	外部計
イ	3	2	(5)	9	9	(18)
ロ	8	6	(14)	3	7	(10)
ハ	3	0	(3)	3	3	(6)
ニ	22	23	(45)	12	13	(25)
無記入	0	1	(1)	1	2	(3)

イの“積極的に参加したい”は内部の5名(7.4%)に対して、外部が18名(29%)。“ゆとり”を利用し

た総合学習と高3での選択教科としての総合学習とは、その時間数や持ち方から言っても比較にはならないはずだが、附属中学出身の生徒たちにとって「ゆとり」を利用した総合学習は、総合学習に対してのマイナス・イメージの役割しか果たさなかったのだろうか。「わからない」が内部の場合、実に3分の2を占めているが、総合学習の内容と方法次第では、まだまだ生徒達は興味を失っていないと分析しておきたい。そのことは前問において、ニ・チ・ヌなどに結構多くの生徒達が○をつけており、主体的なかかわり方の出来る「総合学習」を求めていることからとも言えるであろう。

(4) 今後のグループ研究の方向について

「ゆとり」の時間を利用した総合学習の展開」については、いちおうの完結をみることとなった。今後はとくに、高3で「総合学習」の時間を設けることを目指して、次の様な多様な試みを追求して行きたい。(なお、当グループでは「中・高における教科の枠を越えた総合学習の多様な試み」というプロジェクト名で、昭和58年度附属学校教育方法等改善経費を要求している)

- ① 既成教科をドッキングする形での総合学習の試み
たとえば高1「現代社会」「理科I」「保健」などを中心として、人間と自然(環境)とのかかわり、公害・核問題などをテーマとした担当教官のティーム・ティーチングによる総合学習の試み。
- ② ロングタイムのHRを利用しての総合学習の試み
たとえば学校祭での統一テーマ、文化講演とLTでの指導を結びつけて、無学年制的な総合学習を短期的に試みる。

- ③ 「ゆとり」の時間を利用しての総合学習の試み
中3における2年間の実践にふまえて、中学の他の学年において更に改良を加えて実施する。例えば、中1において「サルとヒト」というようなテーマで、国語・社会・理科・技術・保健などの教科を総合した学習を年間10数回実施し、外部研究者による講演なども含める。遠足は犬山モンキーセンターとし、サルの生態を観察させる。

④ 学校行事の中での総合学習の試み

高2の研究旅行、高1の林間学校、中3の修学旅行、中1の野外学習などを総合学習の場として展開することが考えられる。たとえば、高2の研究旅行に再度取り組むとすれば、「瀬戸内地区の自然と人間」といったテーマで、地理的・歴史的・民俗的アプローチを四国と山陽地方をフィールドとして実施し、生徒達の自主的研究を奨励する。

⑤ 総合学習の時間を特設しての試み

当面は、高3の文系選択者に選択教科としての「総合学習」を設けることが考えられる。テーマは、「職業とは」、「世界と日本」、「技術の歴史」、「男と女」、「差別」などが考えられるが、これらの大テーマのもとに卒業研究的な意味を持たせた自主的研究を奨励する。

今年度は①・②・④の中から新メンバーによって取り組むことの可能なものを、重点的に研究・実践して行く予定である。